

6月16日 参議院予算委員会 集中審議小池議員 VS 安倍首相、萩生田官房副長官、山本大臣
(前編・後編)

<出演者>小池晃議員、安倍晋三首相、萩生田官房副長官、山本地域創生大臣、松野文科相

小池晃議員 (共産党)

「加計学園の問題で伺います。「総理の意向」という文書が明らかになってちょうど一月。そのあとも次々と、文書が出てまいりました。総理も官房長官も、怪文書だ、印象操作だ、とって取り合いませんでした。そして、国会閉会直前になって、ようやく、怪文書でもなんでもなし。文科省の中で大臣も含めた説明のためにつかわれていた文書だと言うことが明らかになったわけでありませぬ。松野大臣は、昨日の記者会見で、大変申し訳ない、と。総理には反省はないんですか？ 国民に対して明確に謝罪が必要だと。思いますが、いかがですか？」

山本一太委員長

「安倍内閣総理大臣」

安倍晋三内閣総理大臣

「このですね、獣医学部の新設についてはですね、特区の指定、規制改革項目の追加、事業者の選定など事前のプロセスも、関係法令に基づき、適切に実施をしています。獣医学部の設置にかんする文科省、農水省、内閣府の三大臣合意文章もあり、政府全体として決定しています。このことを先ず、申し上げたいと思います。え、規制改革には、抵抗勢力が必ず存在します。

(この日 何度も同じ文章を読み上げるため、 議場 ざわざわ)

安倍総理大臣

「岩盤のようにかたい規制に挑戦すればするほど、 既得権益を握る勢力との激しい抵抗は避けられないわけでございまして。

(理事、委員長席の周りに集まる)

その中のプロセスで、主張と主張がぶつかり合うのは当然であります。調整の中でいろんなやりとりがあることは当然だろうと、思います。重要なのは、こうしたやりとりを経て、最終的に政府全体で決定したことで、あります。この間、民間人の意見なども踏まえて、決定に至ったものであります。ただこの間、文書の問題を巡って、対応に時間がかかったことについては、率直に反省したいと考えております。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「時間がかかったことじゃないでしょうが。怪文書だ、印象操作だ、と否定し続けたじゃないですか。そのことについて、国民に謝罪を率直にすべきじゃないかと。」

(そうだ、拍手)

山本委員長

「安倍内閣総理大臣」

安倍総理大臣

「ま、この間ですね、時間がかかった。そして、この対応について、様々なご批判があることについては、私も総理として、真摯に受け止めたいと、このように思っております。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「謝罪ってことは言わないんですね。わたしは明確に国民に謝罪すべきと思いますよ、これは。

(そうだ!)

先ほどから問題になっている国家戦略特区会議の決定に至る文書の修正について。私はこれ、5月22日の決算委員会でもお示しをして、当初は「広域的に」とか「存在しない」「限り」がなかったという文書を示しました。それが結局、最後に、手書きでここにあるように、「広域的に」「存在し」ない地域に「限り」、ということが書き込まれた。これは文科省の共有フォルダに保存されていたわけですね。「広域的に」「存在し」ない地域に「限り」という言葉が入ったことで当時、獣医学部の新設を希望していた京都産業大学が事実上ふるい落とされ、そして、加計学園にしか認められなくなった。そして、この書き込みは、先ほど、藤原審議官が自分で書いたとお認めになっている。

そしてもう一枚、11月1日のメールで、内閣府から文科省に送られたメールには、手書き部分で直すように指示がありました。指示は『藤原審議官曰く、官邸の萩生田副長官からあったようです』と。先ほど萩生田副長官は「修正の指示は出していない」と答弁しましたがけれど、では、あなたはね、この件についていかなる発言もしていないと断言できますか？」

山本委員長

「萩生田官房副長官。」

萩生田官房副長官

「あの、さきほどでもご答弁申し上げましたけれど、もともとの原文の文章について、やりとりをした場に同席をしたことは、一度もございません。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「今のは、ごまかしなんですよ、私は同席したかと聞いているわけではないんです。同席してないでしょう、これは事務方のお話なんですから。指示というかたちで、明確なものでなくても、あ

あなたは、この問題でね、広域的に限定するような趣旨のことは言っていないのかと。この国家戦略特区の11月9日の決定にかかわって、あなたは一切の発言していないんですか？」

山本委員長

「萩生田官房副長官」

萩生田副長官

「決定に関わって、わたしが指示したことはございません。」

(ざわざわ)

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「なんかねえ〜、こうね、前置きがつくんですよ。そりゃ決定は国家戦略特区会議だから最後の瞬間だろうけれども。その仮定の中で、こういうやりとりがあったのではないかということはね、これは、十分考えられる。ところがね、山本大臣とんでもない発言をしたんです。このメールを出したのは、このメールを出したのは、文科省からの出向者なんだと。あのね、出向者であっても、あなたの部下でしょ？」

(そうだ!)

山本大臣は、「これは文科省の出向者が書いたもの」というけど、あなたの部下ですよ。あなたの部下が、じゃ、ねつ造したメールだとおっしゃるんですか？」

山本委員長

「山本地方創生担当大臣！」

山本大臣

「あの、その文書等について、わたしどもは今回、調査したわけではありますが、本メールを送信した職員本人に真意を確認したところ、藤原審議官から直接この旨を聞いたこともなく、事実確認も不十分なまま連絡をした、との報告がありました。」

いずれにせよですね。獣医師養成大学等のない地域での新設を可能とする判断は、すでにわたしが各方面10月28日に出しておりまして、関係省庁に配布した原案にも含まれていること、その後の最終調整もわたしが11月1日に判断したことでありまして、このことから時系列的にも、えー、萩生田副長官の指示があったとは考えられないということなんです。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「ほんつとにひどいと思いますよね。あのね、森友学園の時も首相付の職員が勝手にやったことだと、菅官房長官、この場で答えた。今回もまたね、内閣府の職員が勝手につくったメールなんだ

と。違うんだと、間違ってるんだと。そんな卑劣な言い逃れが通用すると思うのかと。」

(そうだ!)

で、山本大臣は先ほど、官邸でのぶら下がり、こう言ってるんですよ。『萩生田氏からの指示、というメールを書いた人にきいたところ、「課内で色々飛び交っている話を聴いて、確認しないままにそういうことを書いた』と。・・・なんで萩生田さんの名前が課内で飛び交うんですか？

(笑いが起こる)

国家戦略会議となんの関係もない人の名前がね。なんで課内で飛び交うんですか？おかしいじゃないですか。」

山本委員長

「山本国務大臣！ 静粛に願います！」

山本大臣

「あの、そういう、あの、いろんな文書を直していきます。そういうときに、必要なときは適宜、副長官にも、ご報告します。そういうさいに、副長官から、あー、なんらかの、修正をすることは一切ありません。わかったというようなことで、適宜、連絡を取りながらやるわけでありまして。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「なにいつてるかまったく聞こえないんですけど。まったく、私は語るに落ちたって話だと思えますよ、これ。だって、萩生田さんの名前が課内で飛び交ってるから、要するにですよ、これは官邸の意向なんだ、官邸の意向なんだということがね、決定過程の中で、内閣府の中で飛び交っていたと言うことを語ってたということになるわけじゃないですか。

(そうだ!)

そういうことなんです、これは。あなたの言ってることは、そういうことなんです。文科大臣にお聴きしたいと思いますが、このメールをまるで 文科省の内通者が通報したかのように言ってますが、ひどい話だと思うのですが、このメールはね、業務でやってるわけですよ。このメールの中にはちゃんと、「文書の修正については15時から文科大臣レクの予定です」と書いてあります。大臣、この修正について、どのような説明がありましたか？萩生田氏からの要請があった、指示があったという趣旨の説明がここではあったんですか？」

松野文科大臣

「具体的にいつですね、これが私に説明があったかは、いま、突然のご質問でありますので、記憶しておりませんが、その資料を見たのが、私、今回の調査の中ではじめて見たものでありますし、今、先生のほうからご指摘があったですね、副長官の指示があり等々の説明を受けたことはございません。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「結局やっぱりこういう経過をみるとですよ、萩生田さんの名前がなんで出てくるのか、ってことなんですよ。だって、国家戦略会議のね、特区の所管でもなんでもないわけですよ。そういう人の名前がね、出てくるといのが、これわざわざ「官邸の萩生田副長官から」とあるんですよ。総理、やっぱりこういう経過を見れば、これはまさに、総理。「首相官邸の意向」というのをですね、具体的な指示があったかまでね、それはわかりませんよ。やりとりの詳細は知っているわけじゃない。しかし、「首相官邸からの意向」であるということが明確に記されているそういうメールのやりとりがある中で、これが行われたと。そういうこれはどう考えたって、「総理の意向」、「官邸の最高レベル」という話も含めてね。やはり、これはやはり、国民がこれはおかしいんじゃないかと、首相官邸の意向が働いたという疑念を持ったとしても、当然の……。全体としてみれば、当然ではないですか？」

—後編—

小池晃議員

「で、私、もう一つ、お示ししたいのですが、昨日文科省が発表した文書の中に、今後のスケジュールというのがあります。私5月22日の委員会で示したのですが、文科大臣、この文書、いつ頃つくられたものですか？」

山本一太委員長

「松野文部科学大臣」

松野博一文科大臣

「お答えいたします。えー、ご指摘の文章にしめされているスケジュールですが、平成28年10月から、でありますから、同年9月から10月の初旬に作成されたものと思います。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「国家戦略特区会議で52年ぶりの獣医学部新設が決まったのは、11月9日なんですよ。ところが、今大臣の答弁にあったように、この文書はおそらく9月の段階で文科省作っていた。文科省は、「平成30年4月開学」今治、ってことが前提となったかたちでね、スケジュールつくりされているわけですよ。だから文科省としてはね、文科大臣ね、文科省としては、国家戦略特区会議の決定前から、獣医学部の新設は今治、とすることで決めていたということですね。」

山本委員長

「松野文部科学大臣」

松野文科大臣

「えー、お答えをいたします。文部科学省としましては、国家戦略特区における獣医学部新設につ

きまして、そのプロセスにおいて検討が進んでいる区域は、その当時、今治市のみと承知をしておりました。そのため、今治に関して一定のシュミレーションを行ったものでございます。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「そんなことはありません。その当時、京都産業大学は獣医学部新設を希望していたのは明確な事実じゃないですか。そのことを否定するんですか？京都産業大学はその時点で、獣医学部の新設を希望していなかったんですか？文科大臣、お答えください。」

山本委員長

「松野文科大臣・・・あ、じゃあ、山本担当大臣。」

小池議員（マイクを通さず）「いいよお～～、文科大臣でいいよおー」

山本幸三地域創生大臣

「京都産業大学がですね、提案書としてきちっと出してきたのは10月であります。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「そんなことないですよ。それ以前から、（苦笑しながら）何度もワーキンググループでね、京都産業大学、資料を出ているわけですね。実際に京都産業大学は、それ以前から希望しています。それは明確な事実です。では、京都産業大学についてはこういうスケジュールはつくったんですか？文科省として。」

山本委員長

「松野文科大臣」

松野文科大臣

「お答えをいたします。先ほど申し上げたとおりですね、このスケジュール作成時におきまして、文部科学省として、えー、検討が進んでいる区域というのが、今治市、という認識を持っていましたので、今治市にかんするものが上がっている、ということでございます。京都産業大学に関して検討が進んでいる、という認識が文部科学省においてなかった、ということでもあります。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「結局だから、加計ありき、今治ありきではないって言っていましたが、今治ありきということになるんじゃないんですか？これだったら。ちょっと説明おかしいと思いますけど、私は、京都産業大学が、かなり有力な候補として、詳細な提案も出して、獣医学部の新設を希望していたことは、我々は、京都産業大学の関係者からも聴いていますので明確な事実だ。」

ところが、ところが、もう今治しか想定していなかったことをはっきりお認めになったわけですよ。結局今治ありき、加計ありきでこの議論が行われた。「今治ありき」ではないといったけれども、そうではなかったということではありませんか？しかもね、今治市側が情報公開で明らかにした資料にも、昨年8月の段階で今治市は内閣府とのメールのやりとりをしていて、「平成30年4月開学」というスケジュールをつくっていたことも明らかになっているわけですね。内閣府は、これを「今治市が様々なケースを想定して今治市の責任で記載した」、と。すなわち今治市が勝手につくったというようなことを言ってますが、内閣府だってちゃんとつくってるじゃないですか。しかも「平成30年4月」ってなってるじゃないですか。平成30年4月というスケジュールも含めてやっていた。加計ありき、今治ありきで、国家戦略特区会議の前から、文部科学省は、「平成30年4月開学」という想定で「加計学園ありき」で検討していた。間違いないですね？」

山本委員長

「松野文科大臣」

松野文科大臣

「おこたえをいたします。先ずですね、国家戦略特区の進め方としましては、政府全体としてスピード感をもってすすめるように、ということで統一的な見解をもってありました。その中で、スピード感をもって、ということで最速のシュミレーションをいたしますと、最速のシュミレーションが30年4月ということでありますので、それに対応すべく、準備をした、ということになります。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「じゃあ、それ以外のシュミレーションって、やったんですか？」

山本委員長

「松野文科大臣」

松野文科大臣

「お答えいたします。先ほどの答弁と重なりますが、シュミレーションとしまして、このスケジュールをつくりましたときにですね、京都産業大学を対象としてですね、認識しておりませんでした、具体的なとして上がってきていなかったのですね、先ず、今治についてですね、シュミレーションをつくったということになります。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「結局これをみますと、平成30年4月開学を逆算して最短のスケジュールを作成し、共有していた。内閣府に言われた。」

内閣府に言われたと一おりの、スケジュールをつくったって訳ですね、文科省としては。お答えください。」

松野文科大臣

「スピード感をもってすすめる、ということであれば、その当時 最速の可能性があるのは、平成30年4月開学だった、と言うことで、行政としては、当然可能性のあるものに対して、シュミレーションをつくっているというわけであります。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「だからね、全体としていうと、まさにこの結論に向けて、全部ね、すべてつじつまが合うんですよ！今回出てきた文書はね、すべてね。今回の問題を総理は、総理ね。「岩盤規制だ」と「規制緩和だ」と、繰り返すわけですがけれども、総理ね、獣医学部をつくるかどうかは議論になっていないわけですよ。獣医学部はつくると言うことを前提とした議論が、霞ヶ関の中では行われているわけですよ、文科省の中では、すべてね。

文科省と内閣府で議論していた焦点は、「平成30年4月に開学ができるのか、どうか」とその一点が問題になっているんですよ。その平成30年4月開学に向けて、四角で囲んであるようないろんな課題がありますよ、とすべての文書が物語るのは、これは獣医学部を新設するのは今治市の加計学園だと。このことは、先ほどからあるように、もうそれしかないんだと認めました。それが当然の前提だと言うことになってきた。

そして、それを揺るがぬ、揺るがぬものにしたのが、総理が議長を務める11月9日の国家戦略特区会議で「現在、広域的に大学等が存在しない地域に限り、新設を認めるようになった」と。これが結論づけたわけじゃないですか。この結果、事実上今治市加計学園だけに、これが認められると言うことになったわけです。

だから総理ね、先ほどから何かあればすべて、「岩盤規制」「岩盤規制」とおっしゃるけれど、私どもは、規制緩和すべてオーケーじゃないですよ、共産党は。しかし、問われているのは、規制緩和の是非ではないんですよ。加計にあわせた、岩盤規制に穴をあけたというけれども、加計にあわせた穴をあけたんじゃないかという国民の疑問に答えられますか？総理。」

(総理が立たず、山本担当大臣が立つ)

小池議員

「総理、総理、時間がないんですから！」

山本委員長

「山本大臣、先ず、山本担当大臣」

山本幸三地方創生担当大臣

「あのですね、我々は、11月9日、諮問会議でやるときは、制度を変えるかどうかを先ず、決めるわけです。したがって、小池議員がおっしゃるように、この獣医学部をつくるか、ということでは

は真剣な議論をやり、文科省との間でもやり、ワーキンググループでも、有識者会議でも、やったわけですよ。先ほどから何度も申し上げているように、特区の基本方針というものは、先ず改革をやるとういところからスタートするのであって、もし、できないというのだったら、規制監督省庁ができない理由を適切に述べなくてはならない。そういうやり方をやっている中で、結局前川さんは、「ゆがめられた」なんて言ってるけど、逆ですよ。ほんっとにそうだったら、そこで抵抗して、その証拠を示さなくてはいけなかったわけですよ。それをやらなかったわけでありまして、」
(おお~~~~~っという低いどよめきが起こる)

そういう意味では、わたしたちはそういう議論をきちっとやりました。」

山本委員長

「静粛に願います、聞こえないですから」

山本大臣

「そして、最終的に、「広域的に限られる」ということは、獣医師会等の議論を踏まえて、私が、最終的に、決断して、11月9日の特区市民会議の結論になったわけです。」

山本委員長

「小池晃くん」

小池議員

「そこまで言うんだったら、前川さん呼びましょうよ！」

(そうだ!!! 野党議員、大きな拍手)

なんで、証人喚問やらないんですか！個人攻撃まがいのことまでしてね。とんでもないよ！だいたいね、国会の閉会直前になって、こーんな短いね、予算委員会を開いて、これで幕引きにしようなんて、とんでもない話だ！

(そうだ!!!)

前川さんの、なんで証人喚問を反対するんですか？自分の部下をスパイ呼ばわりする大臣だ。それがね、前川さんをあれだけ攻撃するようなことを、ここで言うんだったら、じゃあ、自民党、公明党はなんで証人喚問に反対するんだ！」

(そうだ!!)

総理ね、この問題ね、「国会がお決めになること」なんて、そんな文句ではもう通用しないですよ。国民の大多数がこれに納得できないと言っている。日経新聞のインターネットの世論調査では、政府の説明に納得できない人は81%。前川前事務次官の説明に納得できるという人は74%ですよ。これが事実じゃないですか。総理ね、証人喚問、これ、総理のイニシアチブで認めるべきだ。はっきり答えなさいよ。」

山本委員長

「安倍内閣総理大臣」

安倍内閣総理大臣

「小池議員はね、私がなんでもできるというふうにお考えかもしれませんが、それは全くないわけでございます。あらゆることをですね、政府における意志決定に関しましても、まさにどこに決める、ということにつきましては、これはまさに、山本大臣がですね、責任を持って最終的に決められるわけでありまして、私は国家戦略特区諮問会議の議長ではありますが、そこで大きな指示を出します、しかし、具体的なことはですね、山本さんも何回も述べていらっしゃるようにね、責任思っ、お決めになったわけでありまして。」

山本委員長

「簡潔におねがいします。」

安倍内閣総理大臣

「国会でどうするか、ということにつきましては、まさに、委員のみなさまが、お決めになることですから、誇りを持ってね、決めていただきたいと思います。」

山本委員長

「時間です。一言だけ。一言だけ。」

小池議員

「共謀罪でもなんでもね、どんどんどんどん自分で決めるくせにね。こういう問題、一切自分で決めようとする。あまりにも無責任だ！証人喚問についてね、証人喚問についてね、理事会で、理事会で決めていただきたい。」

山本委員長

「時間ですから。」

小池議員

「閉会中の集中審議についても、決めていただきたい。そのことを強く求めて、私は質問を終わります。」

山本委員長

「以上をもって、小池晃くんの質疑は、終了いたしました。」